



# 校長室だより

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和6年11月15日

第26号

## 心が動く、音楽の秋です

### ★鑑賞を楽しんだ市の音楽会

去る12日(火)は第19回黒部市小学校音楽会でした。会場のコーラレには市内9校の5・6年生約630名が一堂に会しました。村椿小は今年、発表校ではなく、他校の発表を鑑賞しました。発表校4校は児童数の規模はさまざまでしたが、それぞれの曲をこれまでしっかりと練習してこの日の本番に臨んでいることがよく伝わりました。合唱、合奏、どれも聴き応えがありました。

全体での「翼をください」では、本校の石井先生が指揮者を務めました。会場後方の客席に位置する村椿チームは、遠くステージの中央で颯爽と指揮をする石井先生の方をしっかりと見て歌いました。石井先生からは本当に、村椿のみんなが大きな口を開けて歌っているのが見えたそうです。

また、プロの演奏の鑑賞として、マリンバと打楽器の演奏を楽しみました。学校では見慣れない大きなマリンバ。そして一度に4本のマレットを駆使して演奏する超絶技巧の数々に驚きました。芸術の秋、音楽の秋、いいですね～。

### ★「いっしょに歌いましょうコンサート」にて

もう一つ、これはおまけなのですが、音楽会の前日11日(月)の業間には、私も音楽室での歌のミニコンサートを開きました。先月の寺崎先生のバイオリンミニコンサートに刺激を受け、また「校長先生も歌を歌われたらどうですか」という職員室の先生方からの言葉に後押しをされる形で、思い切ってやってみました。そもそも声楽の専門家ではなく、合唱を趣味で続けてきている程度の実力ですので、難曲ではなく子供たちに親んでもらえそうな曲を中心に用意し、ピアノ伴奏は学校司書の村椿先生にお願いしました。題して「いっしょに歌いましょうコンサート」です。

当日の朝の告知にも関わらず、興味をもった子供や大人が音楽室にたくさんやってきてくれました。CD伴奏の曲やアカペラ(無伴奏)の曲も含めて5曲歌いました。嬉しかったのは、静かに聴いて歌い終わりに拍手をしっかりとしてくれたこと、「いっしょに歌いましょう」と呼びかけた曲は、きれいな声でいっしょに唱和してくれたこと、そして一通りコンサートが終わった後もまだ歌いたかったのでしょうか、自然とピアノの周りに集まって皆で歌い続けていたことです。短い業間の時間いっぱい、その場から離れがたい様子で音楽に親しむ様子が心に響き、じんとしました。

その後、「校長先生のコンサート、楽しかったな」「またいつかしてください」と言ってくれる子がいました。ありがとう! また職員室では、「本当にいい音楽にふれると心が動きますね。うちの子供たちにとって感動体験になったと思います」と、嬉しい感想を言ってくださる先生方がいました。半分はお世辞? もしかしてそう言わせている校長のパワハラ?(笑) そうではないと信じて、素直に素直に、受け取ることにします。

### ★今週末の公民館祭り、そして…

さて、来たる17日(日)の公民館祭りでは、3年生が音楽の発表をすることになっています。4月から授業で取り組んできた歌やリコーダーの演奏をします。是非多くの皆様のご観覧をお願いします。また寺崎先生のミニコンサートは、来週18日(月)に第2回目が開かれることになりました。今度はバイオリンではなくチェロで(寺崎先生、多才ですね!)、そして先生以外のシークレット・ゲストがいるとのこと。どんなコンサートになるか、今から気になります。

音楽は文字どおり「音を楽しむ」ですから(「音が苦」ではありません)、演奏も鑑賞も楽しんで勝ちです。ピアノやダンスを習っている子供たちにも、いつか学校で発表をしてほしいなあ～と思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております!

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名( )



## どんな本からでも、まずは手に取ることから 読書の秋に思うこと その2

今月は校内読書月間です。校内の掲示板には、全員が取り組んだ「おすすめの本の紹介カード」が張り出されています。『コミック版 世界の伝記』『5分後に意外な結末』『絶叫学級』『ざんねんないきもの事典』…。イマドキの子供たちの好きな本の傾向を感じます。中には学年の割には少し幼稚な本を選んでいる子もいるのですが、それでも自分なりに読みたい本を見つけて読書に親しんでいるのはよいことだと思います。

全国学校図書館協議会の調査によると、「読書は大切だと思う」と答えた小学生は9割に上る反面、1か月に本を1冊も読まない児童は前年よりも増えているそうです。読書大切に思う子供を後押しする環境づくりが大事です。

たとえば時々親子で図書館や本屋さんへ足を運び、どんな本でもよいので、興味がもてそうな本をまずは手に取ってみることを勧めていきたいものです。1冊読み終わると次に読みたい本がまた自然に見つかるでしょう。また、周りの大人も、本でも雑誌でも自分が好きな読み物を楽しみながら、そしてその姿を子供に見せる、というのも効果的だと思います。皆さんのお宅ではいかがですか。

### シリーズ「教室におじゃまします」11月12日(火)6年社会科の巻

午前中の音楽会から帰り、制服姿のままのキリリとした6年生です。豊臣秀吉の政治について、予習の形で予め各自ノートにまとめ、それを石井先生が授業前にチェックしていました。こうしたスタイルをこのところ続けているとのこと。なるほど！

「Aの人のノートを見たくないですか？」と先生が呼びかけ、それぞれ教室を回ります。「細かく書いてある」「矢印→が上手に使われている」「マーカーでポイントが強調されていて見やすい」など、まとめ上級者のノートから学ぶところを見つけます。

その後、さらにその数名のノートを拡大提示しながら、秀吉の政治のポイントを皆で確認します。今回特に押さえた内容は①検地 ②刀狩 ③武士と農民の身分の区別 の3つだったようです。ですが、それ以外の細かい事柄についても、各自が調べたことをどんどん発言していき、黒板上にまとめられていきました。石見銀山の開採、それによる南蛮貿易、大陸からの陶工の渡来による有田焼等の技術伝来、また、知恵の回る秀吉が織田信長に気に入られて出世していったこと等、

それぞれが調べてきたことがいろいろありました。このような形で各自が「一人学習(予習)」をしっかり行うことの大切さを、石井先生が子供たちに定着させたいのだという意図が、しっかりと感じられました。中学校以降の学習にも生きそうです。「みんな少しずつノートのまとめ方が上手くなってきているよね」と努力をたたえる温かい一言もありました。頑張り、6年生！

<おまけのひとりごと>自分が子供の頃はそもそも「本屋」という所へ行ったことがなく、図書館で本を借りることはあっても自分の本(「小学〇年生」といった雑誌ではなく)を買ってもらったという経験がほとんどありませんでした。その反動か、自分で自由に本が買えるようになった今は、「欲しい」「読みたい」と思ったときに迷わず本を買うことにしています。そして買ったらずぐに、まずはページをめくり読み始める。不思議なことに「後で読もう」と思って積んでおくと、タイミングを逃してなかなかその本を読まなくなります。読みたいと思った時に即読むのが一番です。Book Off といったお店も活用すれば、さほどお金もかかりません。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ( )